

# 天災に備える

大規模な自然災害は、いつ起こるかも分からず、人間の力ではくい止めることができません。

しかし、日頃の備えによって被害を減らすことは可能です。私たちはどのような備えをすることができるでしょうか。今回は災害への備えについて考えてみます。

## 天変地異の国日本

自然は我々人類に恵みをもたらしてくれる一方で、時として思いもよらない猛威を振ります。

特に日本は外国と比べ、自然災害の多い国と言われています。台風、大雨、大雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火など災害の種類も多岐に渡り、これらの災害はいつ、どのような形で起こるか分かりません。かつて日本は、1704年から1711年というわずか8年の間に地震や

### 宝永年間(1704年～1711年)地殻変動

宝永は1704年から1711年の8年間。江戸幕府將軍は徳川綱吉、家宣の時代です。

このわずか8年という宝永年間に日本は実に多くの大きな災害を経験。その中には日本最大級とも言われる「宝永地震」、その49日後には「宝永大噴火」と呼ばれる富士山の噴火もありました。

| 年号(西暦)      | 災害                |
|-------------|-------------------|
| 元禄17年(1704) | 浅間山噴火             |
| 宝永元年(1704)  | 羽後、陸奥大地震          |
| 宝永3年(1706)  | 浅間山噴火<br>桜島、霧島山噴火 |
| 宝永4年(1707)  | 宝永の大地震<br>富士山噴火   |
| 宝永6年(1709)  | 浅間山噴火             |
| 宝永7年(1710)  | 浅間山噴火             |

火山の噴火という大きな災害を何度も経験しています。

### 突然の豪雨災害

今年7月、予想を遥かに超える豪雨が西日本を襲いました。降り続いた雨により、河川の氾濫、土砂災害などが引き起こされ、岡山県や広島県などの市町村が受けた被害は甚大です。

真庭市でも、9月19日時点で住宅被害136棟、農林業被害約14億円、商工業被害約1億5千万円など、災害の影響は大きなものとなりました。

## 気象情報の収集

災害から身を守るためには、気象情報は欠かせません。真庭市で、災害時に市内の状況を知らするためには、気象庁や岡山防災ポータル、真庭市ホームページが有効です。

危険が迫り、身を守るための行動が必要となる場合、市から避難情報などが行政告知端末やホームページなどで発信されます。

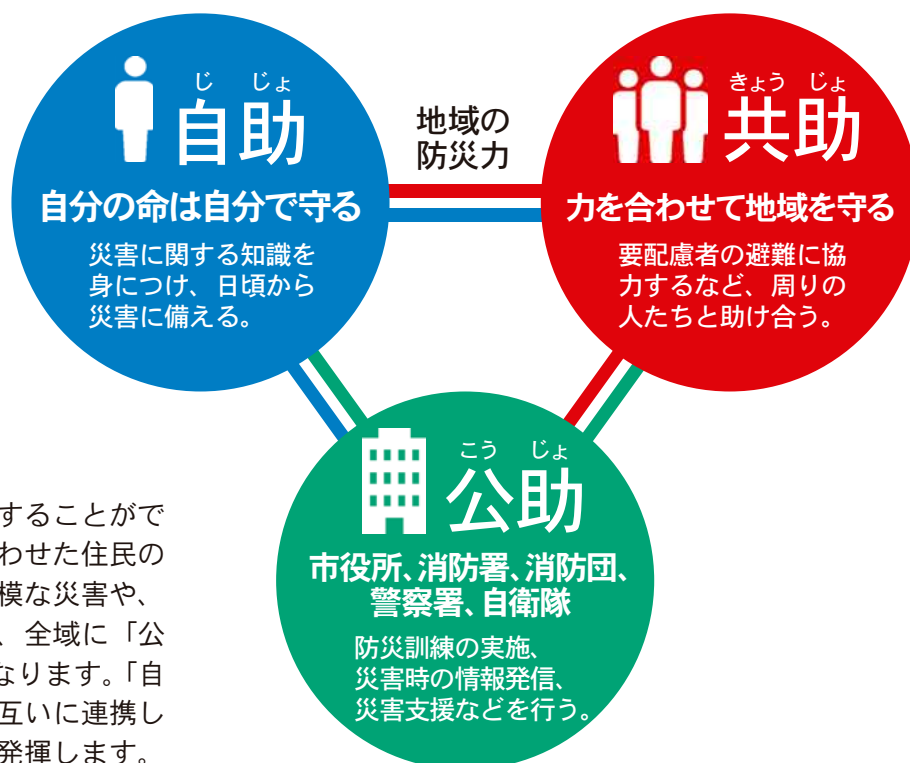
情報を受け取り行動することが、自身や家族の身を守ることにつながります。

## 求められる助け合い

防災対策の基本に3つの「助」があります。

自らの身を自分で守る「自助」、主に自主防災組織に代表される地域のみなさん同士の助け合いである「共助」、市役所や消防署、消防団、警察署、自衛隊などの「公助」、これらが連携することによって災害時の被害を減らすことができます。

特に一刻の予断も許されない状況では、地域の皆さんが協力して身を守る「共助」が防災の要といえます。



災害時、速やかに行動することができるのは、その場に居合わせた住民の皆さんです。また、大規模な災害や、広範囲に及ぶ災害の場合、全域に「公助」の力が行き届かなくなります。「自助」「共助」「公助」はお互いに連携し合うことで最大の効果を発揮します。

# 地域で備える

災害が起こったときに、現場でいち早く対応することができるのは地域に住む皆さんです。  
市内には9月5日現在で124の自主防災組織があります。  
地域を守る自主防災組織について話を聞きました。

## 開田自主防災会

平成17年4月1日に発足。落合地域の屋根、須賀、原上、原下などの自治会で構成されています。

会長 金田 康治 さん



### 地域内で連絡を取り合う

自主防災組織を立ち上げるということ自体が、地域の防災意識を高め、横の連携を密に取ることが出来るようになったと感じます。

大事なのは、普段から連絡を取り合い、地域内でお互いに相手を理解し、情報を共有すること。簡単に言うとは仲良くなることです。

私たちは、ご近所の様子がよく分かるので、スコップやチェーンソー、バールなどの非常時に必要な物は、地域内の誰が持っているか、誰に頼めば借りることができるかを把握しています。ですから、みんなの持っているものだけを組織で備えておけばいいと思っています。

井戸が地域内のどこにあるかを確認し、そこへ停電に備え発電機を常備したり、コミュニティハウスに毛布を用意したり、防災放送用の屋外スピーカーを導入し、コミュニティハウスから放送することができるようになりました。

### 要支援者の避難に注力

力を入れている訓練は、要支援者の避難訓練。肩をかしたり、車いすを使ったりする移動などです。元気で動くことができる人は、自ら活動することが出来ますから、要支援者の避難が一番大事です。

要支援者については、リバーサイドホテルと覚書を交わし、要支援者の受け入れをしてもらうなど連携を行っています。7月豪雨の時にも、リバーサイドホテルから「受け入れ準備ができています」という連絡をいただいて、要支援者など11人の避難を受け入れていただきました。大変感謝しています。

私たちは「向こう3軒両隣」という制度を設けていて、要支援者の避難などは近所で助けあうことになっていますが、制度の運用開始から10年が経過し家族構成、年齢の変化から常に見直しが必要だったと強く感じています。

### 構えずに活動を続ける

開田の自主防災会の会長は、先輩たちから引き継いで私が3代目です。先輩たちが立ち上げた組織を維持、強化していくのは大変ですが、自主防災組織の存在は、相互理解の面からも大きいと思います。

組織の立ち上げは、「自主防災組織をやるう」と大上段に構えると難しくなります。そうなると、何をしたいのか迷ってしまいます。

大事なのは、いざというときに地域のみんなが連絡し合って、自分の命や隣の人の命を守ること、できるだけ被害が少なくなるようにすることなのです。



# 神代自主防災

平成26年7月4日に発足。勝山地域の旧神代小学校区の自治会で構成されています。

それぞれの自治会長が役員を担い、神代コミュニティセンターと連携しながら活動しています。

[写真左上から]

神代北自治会長 大塚智博さん、神代コミュニティセンター長 近藤一成さん、神代西自治会長 藤原幹徳さん、支富田自治会長 三村泰徳さん、センター運営委員長 赤岩育幸さん、神代東自治会長 大塚宏治さん



## 豪雨で避難所開設

7月豪雨の時、勝山文化センターに避難所を開設した旨の情報が入りましたが、神代からは遠く、地域の女性から「神代コミュニティセンターに避難したい」と連絡が入りました。

そこで、コミュニティセンターの鍵を開け、避難者の受け入れを開始しました。特別警報が発表された後、山が崩れ、3本ある道も全て不通になり、神代は孤立。行政告知放送の地域内放送機能を使って、地域の人たちにコミュニティセンターを避難所として開いていることを連絡しました。

幸い、コミュニティセンターでは電気や水道は使え、食料もセンター内に備蓄していた非常食や女性の皆さんが作ってくれるみそ汁がありました。消防団とも連絡を取り合いながら、無事に警報解除の時を迎えた時は、ほっとしました。

## 当たり前前ことをしただけ

自主防災組織として、避難所の開設や、地域への連絡など当然のことをしただけです。神代は約70戸。普段の暮らしの中で一人暮らし世帯など、地域内の様子は把握ができています。今回は、当たり前前のことを、みんなで相談しながらやっただけです。一人では判断できませんから。

# 地域を考える

## 自主防災組織の設立を検討

地域の安心安全を守っていくためには、自主防災組織は必要なものだと考え、以前から設立を検討していました。

しかし、地域内にはすでに自主防災組織を設立している自治会があったり、また検討を行っている自治会があったりと、足並みはそろっていません。そこで、出前授業などを活用した勉強会や、自治会の代表者に集まってもらっての意見交換などを企画しています。



地域自主組織

## 上水田英賀の会

代表 池田直正さん

北房地域、旧上水田小学校区をはじめとする27自治会で構成される地域自主組織。

その内、自主防災組織を設立しているのは5自治会。

## 地域の連帯感の醸成にも

先の西日本豪雨で、地域内の防災意識は高まっています。地域内のパランスを取りながら、いざという時に地域で助け合える組織の設立に向けて前進していきます。

北房小学校の開校により、上水田小学校区は無くなってしまうましたが、上水田という地域は続いています。この先の地域の盛り上がりや、連帯感をつくっていくためにも、地域に住む全員にとって大切な「防災」の活動を行っていくことは、重要です。

# 家庭で備える

災害はいつ起こるか分かりません。家でくつろいでいるときに災害が発生した場合、慌てずに行動することができるでしょうか。  
防災士の資格を持っている2人と一緒に、自分でできること、家族でできることを考えてみましょう。



黒澤 實さん

前田 江美さん

防災のお仕事も  
しているんです。

## スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ

スポーツクラブの運営だけではなく、自主防災組織の設立についてなどの出前講座も行っています。  
お気軽にご相談ください。

TEL0867-42-5430 (FAX0867-45-7557)

### 急な災害に備えて考えて

この広報紙を読んでいるこの時にも災害が起こらないとも限りません。そんな時、どうやって災害情報を入手するか、避難が必要になった場合、どこへ避難するのか確認はできていますか。  
また、避難する際には一体、何を持って行けば良いのでしょうか。一緒に考えてみましょう。

### 家庭によって異なる 必要なもの

皆さんの家庭には非常持ち出し品は備えてありますか。急な災害時に素早く避難できるように、まとめてリュックサックなどに詰めて、玄関の近くなどすぐ持ち出せる場所に常備しておきましょう。

非常持ち出し品を備えても、いざ避難所に着くと、足りないものが出てきます。

小さいお子さんと一緒に避難する人は、おむつが必要でしょうし、持病がある人は薬が必要です。

避難所で毛布やマットが不足することもあります。寒い時期には防寒対策も忘れることができません。

避難生活が数日続くことも考えられます。そんな場合に備えて、数日間何もない場所で過ごすことになったら何が必要か、今、災害が起こった

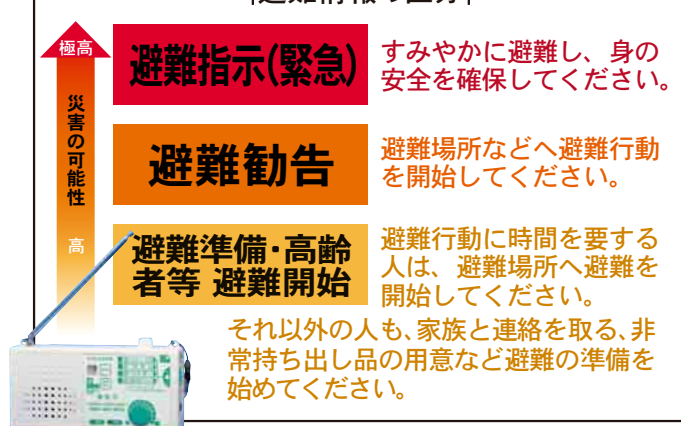
らどうするか、今一度考えを巡らせてみてください。

### 命運を分ける情報収集

災害状況や避難所の開設状況など、災害時に必要な情報は数多くあります。自分に有益な情報を素早く、どのように手に入れるかは大変重要です。

生命や身体への保護が必要な場合には、市から音声告知放送などでお知らせをしています。避難情報には、「避難準備・高齢者等避難開始」「避難指示(緊急)」の3種類があるので、左の図で意味を確認しておいてください。また、気象台から発令する「土砂災害警戒情報」にも注意が必要です。

#### 避難情報の区分



## 情報収集おすすめサイト

### 真庭市役所ホームページ

避難情報、交通情報など真庭市に住む皆さんにとって大切な情報が「重要なお知らせ」コーナーに随時掲載されます。

<http://www.city.maniwa.lg.jp/webapps/www/index.jsp>



### おかやま防災ポータル

県内の気象情報の確認ができるほか、「岡山防災情報メール」に登録をすることで、防災対策に役立つ情報がメールで送られてきます。

<http://www.bousai.pref.okayama.jp/bousai/sp/>



### 高解像度降水ナウキャスト

3時間前から現在の雨の状況と1時間後までの予想を確認できます。土砂災害・浸水害・洪水害の危険度分布を提供するものもあります。

[http://www.jma.go.jp/jp/highresorad/m\\_index.html](http://www.jma.go.jp/jp/highresorad/m_index.html)



スマホでも見れますよ。

### 防災マップもチェック



防災マップには、被害が発生するおそれがある箇所などが記載されています。防災マップを見ながら災害時の行動や日頃の備えについて考えてみてください。必要な場合は危機管理課か各振興局にご連絡ください。

☎ 危機管理課 山本 TEL0867-42-1126(FAX1119)

## 持ち出し品と備蓄品を準備



避難で役に立ったものとしてよく挙がる物が「懐中電灯」や「携帯ラジオ」です。忘れて困った物では、「眼鏡」や「入れ歯」が挙げられます。

### 非常持ち出し品の一例

すぐに持ち出せるようにリュックなどに詰めておきましょう。この他にも、非常時に足を守るスリッパや、眼鏡などの忘れやすいものは枕元に用意しておくのも良いです。

#### 飲料水・食料

飲料水（1人最低1.5ℓ）、非常食、レトルト食品

#### 貴重品

現金、預金通帳、印鑑、健康保険証、お薬手帳、免許証、権利証書、アドレス帳

#### 生活用品

携帯ラジオ、懐中電灯、ランタン、乾電池、携帯の充電器、ヘルメット、防災ずきん、ふえ、軍手・手袋、マスク、防寒具、雨具、着替え、下着、靴下、救急セット、常備薬、歯磨きセット、紙皿、紙コップ、缶切り、栓抜き、割り箸、ティッシュ、トイレトペーパー、生理用品、ゴミ袋、簡易トイレ

### 非常備蓄品の一例

ライフラインが断たれた場合を想定して、最低3日分以上の準備をしておきましょう。

#### 飲料水・食料・調理器具類

飲料水（1人1日約3ℓ）、食品、缶詰、栄養補助食品、チョコレート、調味料、カセットコンロ、カセットボンベ、キャンプ用の食品セット、粉ミルク、ほ乳びん、離乳食

#### 生活用品

テント、防寒防水マット、毛布、寝袋、ビニールシート、ロープ、洗面用具、バール、スコップ、工具セット、簡易トイレ（1人1日5回分位）、救急セット、トイレトペーパー、生理用品、紙おむつ、避難行動要援護者が必要とするもの、家族や関係者の電話番号

## 防災グッズ展示会

防災グッズ展示や段ボールベッド体験のほか、自主防災組織PRコーナーもあります。お気軽にお越しください。

☎ スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ  
TEL0867-42-5430(FAX0867-45-7557)

日時▶10月14日(日) 9:30~12:00 場所▶久世体育館